| | | |
|---|---|---|
| 麻酔科専門医研修プログラム名 | 東邦大学医療センター大森病院麻酔科専門医研修プログラム | |
| 連絡先 | TEL | 03-3762-4151 |
| | FAX | 03-3765-8022 |
| | e-mail | Toho.masuika@gmail.com |
| | 担当者名 | 出光亘 |
| プログラム責任者　氏名 | 落合亮一 | |
| 研修プログラム　病院群<br>＊病院群に所属する全施設名をご記入ください。 | 責任基幹施設 | 東邦大学医療センター大森病院 |
| | 基幹研修施設 | 東邦大学医療センター大橋病院<br>東邦大学医療センター佐倉病院 |
| | 関連研修施設 | 恩賜財団済生会横浜東部病院<br>東京都立小児総合医療センター<br>東京高輪病院 |
| 定員 | 8　人 | |
| プログラムの概要と特徴 | 責任基幹病院かつ基幹研修施設である東邦大学医療センター大森病院，基幹研修施設である東邦大学医療センター大橋病院，関連研修施設の東京都立小児総合医療センター，恩賜財団済生会横浜東部病院，東芝病院，東京高輪病院において，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し，十分な知識と技術を備えた麻酔科専攻医を育成する． | |
| プログラムの運営方針 | 東京都立小児総合医療センター，恩賜財団済生会横浜東部病院にて６ヶ月は研修を行う．研修内容・進行状 | |

| | |
|---|---|
| | 況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する． |

2020 年度東邦大学医療センター大森病院麻酔科専門医研修プログラム

１．プログラムの概要と特徴

責任基幹病院かつ基幹研修施設である東邦大学医療センター大森病院，基幹研修施設である東邦大学医療センター大橋病院および東邦大学医療センター佐倉病院，関連研修施設の東京都立小児総合医療センター，恩賜財団済生会横浜東部病院，東京高輪病院において，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し，十分な知識と技術を備えた麻酔科専攻医を育成する．

２．プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間のうち1年間，後半2年間のうち６ヶ月は，責任基幹施設で研修を行う．
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する．

３．研修施設の指導体制

１）責任基幹施設

東邦大学医療センター大森病院（以下，大森病院）

プログラム責任者：落合亮一

指導医：落合亮一（麻酔，集中治療）

寺田享志（麻酔，集中治療）

佐藤暢一（麻酔，集中治療）

武藤理香（麻酔，小児麻酔）

里元麻衣子(麻酔)

大岩彩乃(麻酔，ペインクリニック)

出光亘（麻酔）
黒澤暁子(麻酔)
専門医：古川力三（麻酔，産科麻酔）
坂本典昭（麻酔，ペインクリニック）
勝井真咲（麻酔，心臓麻酔）
サムナロバート（麻酔）
藤原秀憲(麻酔)
古賀裕揮(麻酔)

２）基幹研修施設

東邦大学医療センター大橋病院（以下，大橋病院）
研修プログラム管理者：小竹良文（麻酔，集中治療）
指導医：豊田大介（麻酔）
専門医：牧裕一（麻酔）
冨地恵子（麻酔）
小野寺潤（麻酔）
東邦大学医療センター佐倉病院(以下，佐倉病院)
研修プログラム管理者：
指導医：
専門医：

３）関連研修施設

恩賜財団済生会横浜市東部病院　集中治療センター（以下，東部病院）
研修実施責任者：高橋　宏行
指導医：高橋　宏行（集中治療、麻酔、救急）

東京都立小児総合医療センター（以下，都立小児）
研修実施責任者：山本　信一　（専門医・指導医　認定番号５８６１）
指導医：　山本　信一（小児麻酔、心臓血管麻酔）
宮澤　典子（小児麻酔、ペインクリニック、心臓血管麻酔）
石田　佐知（小児麻酔）

東芝病院
研修実施責任者：高橋良享
指導医：高橋良享（麻酔）

東京高輪病院

研修実施責任者：齋藤勇一郎

指導医：齋藤勇一郎（麻酔，ペインクリニック）

本プログラムにおける前年度症例合計

| | 本プログラム分症例数 |
|---|---|
| 小児（6歳未満）の麻酔 | 525症例 |
| 帝王切開術の麻酔 | 393症例 |
| 心臓血管手術の麻酔<br>（胸部大動脈手術を含む） | 419症例 |
| 胸部外科手術の麻酔 | 377 症例 |
| 脳神経外科手術の麻酔 | 321症例 |

４．本プログラムの研修カリキュラム到達目標

**①一般目標**

安全かつ安心な周術期医療の提供といった国民のニーズに応えることのできる，麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する．具体的には下記の４つの資質を修得する．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技量

２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力

３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣

４）常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

**②個別目標**

目標１　基本知識

麻酔科診療に必要な下記知識を習得し，臨床応用できる．具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する．

１）総論：

a)　麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している．

b)　麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の

質向上に向けた活動などについて理解している．手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる．

２）生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している．

a） 自律神経系
b） 中枢神経系
c） 神経筋接合部
d） 呼吸
e） 循環
f） 肝臓
g） 腎臓
h） 酸塩基平衡，電解質
i） 栄養

３）薬理学：薬力学，薬物動態を理解している．特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している．

a） 吸入麻酔薬
b） 静脈麻酔薬
c） オピオイド
d） 筋弛緩薬
e） 局所麻酔薬

４）麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

a） 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している．
b） 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる．
c） 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる．
d） 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる．
e） 脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる
f） 神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併

症について理解し，実践ができる．

５）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる．

a） 腹部外科
b） 腹腔鏡下手術
c） 胸部外科
d） 成人心臓手術
e） 血管外科
f） 小児外科
g） 小児心臓外科
h） 高齢者の手術
i） 脳神経外科
j） 整形外科
k） 外傷患者
l） 泌尿器科
m） 産婦人科
n） 眼科
o） 耳鼻咽喉科
p） レーザー手術
q） 口腔外科
r） 臓器移植
s） 手術室以外での麻酔

６）術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる．

７）集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる．

８）救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる．それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる．AHA-ACLS，またはAHA-PALSプロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している．

９）ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる．

目標２　診療技術

麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科

学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する.

１）基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している.

a) 血管確保・血液採取
b) 気道管理
c) モニタリング
d) 治療手技
e) 心肺蘇生法
f) 麻酔器点検および使用
g) 脊髄くも膜下麻酔
h) 鎮痛法および鎮静薬
i) 感染予防

目標３　マネジメント

麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる.

１）周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている.

２）医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる.

目標４　医療倫理，医療安全

医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける．医療安全についての理解を深める.

１）指導担当する医師とともにon the job training環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる.

２）他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる.

３）麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる.

４）初期研修医や他の医師，コメディカル，実習中の学生などに対し，適切な態度で接しながら，麻酔科診療の教育をすることができる.

目標５　生涯教育

医療・医学の進歩に則して，生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する．

１）学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して，EBM，統計，研究計画などについて理解している．

２）院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し，積極的に討論に参加できる．

３）学術集会や学術出版物に，症例報告や研究成果の発表をすることができる．

４）臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる．

**③経験目標**

研修期間中に手術麻酔，集中治療，ペインの充分な臨床経験を積む．通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する．ただし，帝王切開手術，胸部外科手術，脳神経外科手術に関しては，一症例の担当医は１人，小児と心臓血管手術については一症例の担当医は２人までとする．

| | |
|---|---|
| ・小児（6歳未満）の麻酔 | 25症例 |
| ・帝王切開術の麻酔 | 10症例 |
| ・心臓血管外科の麻酔（胸部大動脈手術を含む） | 25症例 |
| ・胸部外科手術の麻酔 | 25症例 |
| ・脳神経外科手術の麻酔 | 25症例 |

７．各施設における到達目標と評価項目

各施設における研修カリキュラムに沿って，各参加施設において，それぞれの専攻医に対し年次毎の指導を行い，その結果を別表の到達目標評価表を用いて到達目標の達成度を評価する。

## 東邦大学医療センター大森病院（責任基幹施設）研修カリキュラム到達目標

①一般目標

安全で質の高い周術期医療を提供し国民の健康と福祉の増進に寄与することのできる，麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する．具体的には下記の４つの資質を修得する．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技量

２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力

３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣

４）常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標１（基本知識）

麻酔科診療に必要な下記知識を習得し，臨床応用できる．具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する．

１）総論：

a) 麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している．

b) 麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している．手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる．

２）生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している．

a) 自律神経系

b) 中枢神経系

c) 神経筋接合部

d) 呼吸

e) 循環

f) 肝臓

g) 腎臓

h) 酸塩基平衡，電解質

i) 栄養

３）薬理学：薬力学，薬物動態を理解している．特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している．

a)　吸入麻酔薬
b)　静脈麻酔薬
c)　オピオイド
d)　筋弛緩薬
e)　局所麻酔薬

４）麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

a)　術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している．
b)　麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる．
c)　気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる．
d)　輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる．
e)　脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる
f)　神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる．

５）麻酔管理各論：

到達目標

<u>1 年次前半</u>

一般的な麻酔管理を行うことが出来る

気道確保
気管挿管・声門上エアウェイデバイス
モニター管理
心電図
血圧計
パルスオキシメーター
カプノメーター
A ライン

合併症のない患者の麻酔管理を行うことが出来る

合併症のない症例

産婦人科

整形外科

一般消化器外科

泌尿器科

眼科

耳鼻科

硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔を行うことが出来る

術中呼吸循環管理を行うことができる

小児患者の麻酔を行うことが出来る

術前評価を行うことが出来る

超音波ガイドによる中心静脈穿刺を行うことが出来る

ASAII の合併症患者の麻酔管理を行うことが出来る

1 年次後半

特殊麻酔管理を行うことが出来る

心臓血管外科

小児外科

呼吸器外科

腎移植

2 年次前半

学会発表を行う（症例報告など）

緊急時の対応を行うことが出来る

基本的な末梢神経ブロックを行うことが出来る

腕神経叢ブロック

TAP ブロック

坐骨神経ブロック

閉鎖神経ブロック

超音波装置、神経刺激装置を使用したブロックを行うことが出来る

一般的な麻酔導入～終了までをひとりで管理することが出来る

術前評価を主体的に行うことが出来る

麻酔科外来

2年次後半

必要に応じて教育出張を行う

複数の常勤医がいる総合病院

小児病院

3年次

学会発表および論文作成を行う（症例報告、臨床研究）

他科の医師からの相談に対応できる

後輩レジデントの指導を行うことが出来る

ASAIIIの合併症患者の麻酔計画をたて、管理することが出来る

APS(acute pain service)に関与する

教育出張

済生会横浜市東部病院　集中治療科

総合病院

ペインクリニックなど

4年次

学会発表および論文作成を主体的に行う。（症例報告、臨床研究）

臨床研究に必要な統計を理解する

上級医の指導の下、A当直を行うことが出来る

後輩レジデントの指導を行うことが出来る

サブスペシャリティの習得

集中治療

RST

ペインクリニック

緩和医療

論文作成を行う（症例報告、臨床研究）

手術室マネージメントを行うことができる

麻酔専門医試験にむけて麻酔の基礎知識を整理する

麻酔作用機序

薬理学的知識
呼吸循環系
中枢神経系
神経伝達系

下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる．

a） 腹部外科
b） 腹腔鏡下手術
c） 胸部外科
d） 成人心臓手術
e） 血管外科
f） 小児外科
g） 高齢者の手術
h） 脳神経外科
i） 整形外科
j） 外傷患者
k） 泌尿器科
l） 産婦人科
m） 眼科
n） 耳鼻咽喉科
o） レーザー手術
p） 口腔外科
q） 臓器移植
r） 手術室以外での麻酔

６）術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる．

７）集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる．

８）救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる．それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる．AHA-ACLS，または AHA-PALS プロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している．

９）ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる．

目標２（診療技術）

麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する．

１）基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している．

a） 血管確保・血液採取
b） 気道管理
c） モニタリング
d） 治療手技
e） 心肺蘇生法
f） 麻酔器点検および使用
g） 脊髄くも膜下麻酔
h） 鎮痛法および鎮静薬
i） 感染予防

目標３（マネジメント）

麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる．

１）周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている．

２）医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる．

目標４（医療倫理，医療安全）

医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける．医療安全についての理解を深める．

１）指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる．

２）他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる．

３）麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる．
４）初期研修医や他の医師，コメディカル，実習中の学生などに対し，適切な態度で接しながら，麻酔科診療の教育をすることができる．

目標５（生涯教育）
医療・医学の進歩に則して，生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する．
１）学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して，EBM，統計，研究計画などについて理解している．
２）院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し，積極的に討論に参加できる．
３）学術集会や学術出版物に，症例報告や研究成果の発表をすることができる．
４）臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる．

③経験目標
研修期間中に手術麻酔，集中治療，ペインクリニックの充分な臨床経験を積む．通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の特殊麻酔を担当医として経験する．
・小児（6 歳未満）の麻酔
・帝王切開術の麻酔
・心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）
・胸部外科手術の麻酔
・脳神経外科手術の麻酔

# 東邦大学医療センター大橋病院（基幹研修施設）　研修カリキュラム到達目標

①一般目標

安全かつ安心な周術期医療の提供といった国民のニーズに応えることのできる，麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する．具体的には下記の４つの資質を修得する．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技量

２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力

３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣

４）常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標１（基本知識）

麻酔科診療に必要な下記知識を習得し，臨床応用できる．具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する．

１）総論：

a） 麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している．

b） 麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している．手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる．

２）生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している．

a） 自律神経系

b） 中枢神経系

c） 神経筋接合部

d） 呼吸

e） 循環

f） 肝臓

g） 腎臓

h） 酸塩基平衡，電解質

i） 栄養

３）薬理学：薬力学，薬物動態を理解している．特に下記の麻酔関連薬物について作用

機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している．

a） 吸入麻酔薬

b） 静脈麻酔薬

c） オピオイド

d） 筋弛緩薬

e） 局所麻酔薬

４）麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

a） 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している．

b） 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる．

c） 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる．

d） 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる．

e） 脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる

f）神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる．

５）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる．

a） 腹部外科

b） 腹腔鏡下手術

c） 胸部外科

d） 小児外科

e） 高齢者の手術

f） 脳神経外科

g） 整形外科

h） 外傷患者

i） 泌尿器科

j） 産婦人科

k） 眼科

l） 耳鼻咽喉科
m） レーザー手術
n） 手術室以外での麻酔

６）術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる．

７）集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる．

８）救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる．それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる．AHA-ACLS，または AHA-PALS プロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している．

９）ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる．

目標２（診療技術）麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する．

１）基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している．

a） 血管確保・血液採取
b） 気道管理
c） モニタリング
d） 治療手技
e） 心肺蘇生法
f） 麻酔器点検および使用
g） 脊髄くも膜下麻酔
h） 鎮痛法および鎮静薬
i） 感染予防

目標３（マネジメント）

麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる．

１）周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている．

２）医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，

周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる．

目標４（医療倫理，医療安全）
医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける．医療安全についての理解を深める．
１）指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる．
２）他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる．
３）麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる．
４）初期研修医や他の医師，コメディカル，実習中の学生などに対し，適切な態度で接しながら，麻酔科診療の教育をすることができる．

目標５（生涯教育）
医療・医学の進歩に則して，生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する．
１）学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して，EBM，統計，研究計画などについて理解している．
２）院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し，積極的に討論に参加できる．
３）学術集会や学術出版物に，症例報告や研究成果の発表をすることができる．
４）臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる．

③経験目標
研修期間中に手術麻酔，集中治療，ペインクリニックの充分な臨床経験を積む．通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する．
・小児（6 歳未満）の麻酔
・帝王切開術の麻酔
・胸部外科手術の麻酔
・脳神経外科手術の麻酔

# 恩賜財団済生会横浜市東部病院（関連研修施設）研修カリキュラム到達目標

①一般目標

集中治療では、主として重症患者や、侵襲の大きな手術を受けた患者の管理を行う。 したがって、器械的な臓器補助や特殊なモニタリングを要する症例が少なくない。 しかし、基本は患者の理学的所見から病態を評価することである。 現在の集中治療医学の課題は、多臓器不全克服と言われる。 現状では一度多臓器不全に陥った場合の救命率はきわめて低い。 したがって臓器障害の進行を未然に防ぐべく、早期に適切な処置が行えることが重要である。その為にも、器械に頼らない、自分の五感で病態を把握できる能力を備えることが最大目標である。

②個別目標

目標１（基本知識）

麻酔，集中治療診療に必要な下記知識を習得し，臨床応用できる．具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する．

１）総論：

a） 麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している．

b） 麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している．手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる．

２）生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している．

a） 自律神経系

b） 中枢神経系

c） 神経筋接合部

d） 呼吸

e） 循環

f） 肝臓

g） 腎臓

h） 酸塩基平衡，電解質

i） 栄養

３）薬理学：薬力学，薬物動態を理解している．特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している．

a） 吸入麻酔薬
b） 静脈麻酔薬
c） オピオイド
d） 筋弛緩薬
e） 局所麻酔薬

4）麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

a） 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している．
b） 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる．
c） 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる．
d） 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる．
e） 硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる
f） 神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる．

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる．

a） 腹部外科
b） 腹腔鏡下手術
c） 胸部外科
d） 小児外科
e） 小児心臓手術
f） 脳神経外科
g） 整形外科
h） 外傷患者
i） 泌尿器科
j） 眼科
k） 耳鼻咽喉科
l） レーザー手術

m） 口腔外科

n） 手術室以外での麻酔

６）術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる．

７）集中治療：小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる．

目標２（診療技術）

麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する．

１）基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している．

a） 血管確保・血液採取

b） 気道管理

c） モニタリング

d） 治療手技

e） 心肺蘇生法

f） 麻酔器点検および使用

g） 脊髄くも膜下麻酔

h） 鎮痛法および鎮静薬

i） 感染予防

目標３（マネジメント）

麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる．

１）周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている．

２）医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる．

目標４（医療倫理，医療安全）

医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける．医療

安全についての理解を深める.
１）指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる.
２）他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる.
３）麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる.
４）初期研修医や他の医師，コメディカル，実習中の学生などに対し，適切な態度で接しながら，麻酔科診療の教育をすることができる.

目標５（生涯教育）
医療・医学の進歩に則して，生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する.
１）学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して，EBM，統計，研究計画などについて理解している.
２）院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し，積極的に討論に参加できる.
３）学術集会や学術出版物に，症例報告や研究成果の発表をすることができる.
４）臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる.

③経験目標
　経験すべき症状･病態･疾患
1)中枢神経系
･急性意識障害の診断と治療方針の決定
･頭部外傷・脳血管疾患の病態とクリティカルケア
･開頭術後患者管理
2)呼吸管理
･急性呼吸不全の診断と治療
･術後人工呼吸管理症例
･人工呼吸（open lung戦略を含む）
3)循環管理
・ショックの診断と治療
･心不全、急性冠症候群

・上室性、心室性不整脈
・心大血管術後管理
・補助循環施行中の患者管理
・pacemaker装着患者の管理
4)体液管理
・急性腎不全の管理(血液浄化法を含む)
5)SIRSと敗血症
・敗血症性ショック患者の全身管理
・凝固線溶系異常の診断と治療
6)感染症管理
・診断と抗菌薬の選択
7)栄養管理
・経腸栄養の早期実施
・栄養関連の諸数値の評価
8)多臓器不全の管理
9)小児肝不全患者の管理

## 東京都立小児総合医療センター（関連研修施設）　研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

安全で質の高い周術期医療を提供し,国民の健康と福祉の増進に寄与することのできる,麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する.具体的には下記の４つの資質を修得する.

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技量
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標１（基本知識）麻酔科診療に必要な下記知識を習得し，臨床応用できる．具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する.

１）総論：
　c） 麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している.

d） 麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している．手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる．

２）生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している．

j） 自律神経系

k） 中枢神経系

l） 神経筋接合部

m） 呼吸

n） 循環

o） 肝臓

p） 腎臓

q） 酸塩基平衡，電解質

r） 栄養

３）薬理学：薬力学，薬物動態を理解している．特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している．

f） 吸入麻酔薬

g） 静脈麻酔薬

h） オピオイド

i） 筋弛緩薬

j） 局所麻酔薬

４）麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

g） 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している．

h） 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる．

i） 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる．

j） 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる．

k） 硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる

l） 神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，超音波ガイド下に行うための知識と基本技術を習得して、難易度の低いものから実践ができる．

５）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる．

o） 腹部外科
p） 腹腔鏡下手術
q） 胸部外科
r） 小児外科
s） 小児心臓手術（６か月以上研修者のみ）
t） 脳神経外科
u） 整形外科
v） 外傷患者
w） 泌尿器科
x） 眼科
y） 耳鼻咽喉科
z） レーザー手術
aa） 口腔外科
bb） 手術室以外での麻酔

６）術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる．

７）集中治療：小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解できる。

目標２（診療技術）麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する．

１）基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している．

j） 血管確保・血液採取
k） 気道管理
l） モニタリング
m） 治療手技
n） 心肺蘇生法

o） 麻酔器点検および使用
p） 鎮痛法および鎮静薬
q） 感染予防

目標３(マネジメント)麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる．
１）周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている．
２）医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる．

目標４（医療倫理，医療安全）医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける．医療安全についての理解を深める．
１）指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる．
２）他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる．
３）麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる．
４）初期研修医や他の医師，コメディカル，実習中の学生などに対し，適切な態度で接しながら，麻酔科診療の教育をすることができる．

目標５（生涯教育）医療・医学の進歩に則して，生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する．
１）学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して，EBM，統計，研究計画などについて理解している．
２）院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し，積極的に討論に参加できる．
３）学術集会や学術出版物に，症例報告や研究成果の発表をすることができる．
４）臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる．

③経験目標

研修期間中に手術麻酔，集中治療の充分な臨床経験を積む．通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の特殊麻酔を担当医として経験する．

・小児（6 歳未満）の麻酔
・胸部外科手術の麻酔
・脳神経外科手術の麻酔
・小児心臓手術の麻酔（６か月以上の研修者のみ）

## 東芝病院（関連研修施設）　研修カリキュラム到達目標

①一般目標

安全で質の高い周術期医療を提供し国民の健康と福祉に寄与することのできる，麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する．具体的には下記の４つの資質を修得する．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技量
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標１（基本知識）麻酔科診療に必要な下記知識を習得し，臨床応用できる．具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する．

１）総論：
- a） 麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している．
- b） 麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している．手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる．

２）生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している．
- a） 自律神経系
- b） 中枢神経系
- c） 神経筋接合部
- d） 呼吸
- e） 循環

f） 肝臓
g） 腎臓
h） 酸塩基平衡，電解質
i） 栄養

３）薬理学：薬力学，薬物動態を理解している．特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している．

a） 吸入麻酔薬
b） 静脈麻酔薬
c） オピオイド
d） 筋弛緩薬
e） 局所麻酔薬

４）麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

a） 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している．
b） 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる．
c） 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる．
d） 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる．
e） 脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる
f） 神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる．

５）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる．

a） 腹部外科
b） 腹腔鏡下手術
c） 高齢者の手術
d） 脳神経外科
e） 整形外科
f） 外傷患者

g） 泌尿器科
h） 婦人科
i） 眼科
j） 耳鼻咽喉科
k） レーザー手術
l） 手術室以外での麻酔

６）術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる．

７）ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる．

目標２（診療技術）麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する．

１）基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している．

a） 血管確保・血液採取
b） 気道管理
c） モニタリング
d） 治療手技
e） 心肺蘇生法
f） 麻酔器点検および使用
g） 脊髄くも膜下麻酔
h） 鎮痛法および鎮静薬
i） 感染予防

目標３(マネジメント)麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる．

１）周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている．

２）医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる．

目標４（医療倫理，医療安全）医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な

態度と習慣を身につける．医療安全についての理解を深める．
１）指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる．
２）他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる．
３）麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる．
４）初期研修医や他の医師，コメディカル，実習中の学生などに対し，適切な態度で接しながら，麻酔科診療の教育をすることができる．

目標５（生涯教育）医療・医学の進歩に則して，生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する．
１）学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して，EBM，統計，研究計画などについて理解している．
２）院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し，積極的に討論に参加できる．
３）学術集会や学術出版物に，症例報告や研究成果の発表をすることができる．
４）臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる．

③経験目標
研修期間中に手術麻酔（全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロック，ペインクリニック）の充分な臨床経験を積む．

**東京高輪病院（関連研修施設）　研修カリキュラム到達目標**

①一般目標
安全で質の高い周術期医療を提供し国民の健康と福祉に寄与することのできる，麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する．具体的には下記の４つの資質を修得する．
１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技量
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標１（基本知識）麻酔科診療に必要な下記知識を習得し，臨床応用できる．具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する．

１）総論：

c） 麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している．

d） 麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している．手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる．

２）生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している．

j） 自律神経系

k） 中枢神経系

l） 神経筋接合部

m） 呼吸

n） 循環

o） 肝臓

p） 腎臓

q） 酸塩基平衡，電解質

r） 栄養

３）薬理学：薬力学，薬物動態を理解している．特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している．

f） 吸入麻酔薬

g） 静脈麻酔薬

h） オピオイド

i） 筋弛緩薬

j） 局所麻酔薬

４）麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

g） 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している．

h） 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について

理解し，実践ができる．

i） 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる．

j） 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる．

k） 脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる

l） 神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる．

５）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる．

m） 腹部外科

n） 腹腔鏡下手術

o） 胸部外科

p） 高齢者の手術

q） 脳神経外科

r） 整形外科

s） 外傷患者

t） 泌尿器科

u） 婦人科

v） 眼科

w） 耳鼻咽喉科

x） レーザー手術

y） 口腔外科

z） 手術室以外での麻酔

６）術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる．

７）集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる．

８）ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる．

目標２（診療技術）麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技

ガイドラインに準拠する.

１）基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している.

j） 血管確保・血液採取

k） 気道管理

l） モニタリング

m） 治療手技

n） 心肺蘇生法

o） 麻酔器点検および使用

p） 脊髄くも膜下麻酔

q） 鎮痛法および鎮静薬

r） 感染予防

目標３(マネジメント)麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる.

１）周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている.

２）医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる.

目標４（医療倫理，医療安全）医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける．医療安全についての理解を深める.

１）指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる.

２）他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる.

３）麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる.

４）初期研修医や他の医師，コメディカル，実習中の学生などに対し，適切な態度で接しながら，麻酔科診療の教育をすることができる.

目標５（生涯教育）医療・医学の進歩に則して，生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する.

１）学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して，EBM，統計，研究計画などについて理解している．
２）院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し，積極的に討論に参加できる．
３）学術集会や学術出版物に，症例報告や研究成果の発表をすることができる．
４）臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる．

③経験目標
研修期間中に手術麻酔，集中治療，ペインの充分な臨床経験を積む．通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の特殊麻酔を担当医として経験する．
・胸部外科手術の麻酔